

公益財団法人 海外子女教育振興財団  
AG5 事務局 宛

## 2021 年度 AG5 報告書

1. 報告者	
(1) 学校名	香港日本人学校香港校
(2) 氏名	山崎 秀哲
2. 実施体制	
(1) 小学部グローバルクラス 4年G組17名 5年G組20名 6年G組12名	
(2) 中学部 1年1組25名 1年2組24名 2年1組21名 2年2組17名 3年1組21名 3年2組22名	
3. テーマ	
(1) 小学部グローバルクラス ア、探究学習（グローバルスタディーズ：GS）の単元開発、授業実践 イ、探究学習に関する日本人学校間での情報交換の実施	
(2) 中学部 学校経営目標：「世界で活躍するグローバル人材の育成」 中期目標：「世界を視野に夢にチャレンジ」 研究主題：「主体的・対話的で深い学びによる探究・交流学习の実践」	
4. 目的と概要	
(1) 小学部グローバルクラス ア、GSの単元開発、授業実践 COVID-19の影響による教育活動の制限が継続すると予想される中でも、また、毎年グローバルクラスを担当する職員が変わる中でも、独自教科であるGSを持続させていくため。 イ、探究学習に関する日本人学校間での情報交換の実施 同じテーマで研究を進める学校間で交流をもつことでお互いの実践や課題等を共有し、授業改善や課題解決の参考にするため。	
(2) 中学部 本校中学部では各学年において、小学部のグローバルクラスで学んだ子どもたちの資質や能力をさらに高めるとともに、将来の自己実現に向けて主体的に進路を切り拓いていくことができるように、次の3つを取組の柱（目的）として、各教科・各領域で探究学習・交流学习を実践している。 ○コミュニケーションの基盤とし「思いやりの心」を育むとともに、「語学力（英語や広東語）」や「伝える力（表現力）」の育成	

○我が国の伝統文化に誇りを持ち、異文化や多文化を理解し、広い視野から物事を考えることのできる国際感覚を身につけさせる。

○自分の将来や世界の情勢に関心を持ち、予測困難な社会を自分の力で切り拓き、積極的に自己実現を図ってこうとする態度や力の育成を図る。

## 5. 今年度実施した取組 (※研究会や出張等は日程も含め記載してください)

### (1) 小学部グローバルクラス

#### ア、GSの単元開発、授業実践

##### (a)新担任による授業実践と教具の活用

##### <各学年の単元>

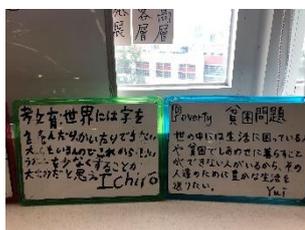
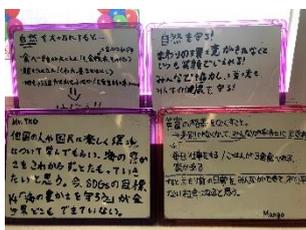
- ・4G：似ているところとちがうところ、限りある資源としての水
- ・5G：環境問題と持続可能社会、イノベーションテクノロジーとその影響、情報と偏見
- ・6G：ガバナンスと人々の暮らし、紛争と平和構築、自由研究



#### ⇒書籍によるリサーチ

児童がリサーチをするうえで一番活用するツールはインターネットである。リサーチする際は、獲得した情報が正しいものであるのか判断するために、「複数のリサーチソースを利用してリサーチすることが大切だ」ということも指導している項目の1つである。

その複数のリサーチソースの1つとして、書籍も挙げている。年々情報が古くなってしまふ、学校の書籍の種類や数が少ないという課題もあるが、書籍の情報は信憑性が高いという利点がある。また、書籍の情報がインターネットでさらに詳しく調べられるきっかけになることもある。毎回書籍のみでリサーチするというわけにはいかないが、今回のように少しずつリサーチ用の書籍やそれらを使ったリサーチに取り組ませる機会を増やしていくことも、幅広い情報を獲得する力の育成につながると考える。



#### ⇒ホワイトボードによる意見の共有

防疫措置の一環として、児童同士の距離をとることが求められるようになった。しかし、探究学習においてグループやクラス全体で児童同士の意見を交流させることは必要不可欠である。

そこで、ノートよりも文字が見やすくなるミニホワイトボードを一人1枚ずつ確保することで、距離を保ちながらも意見交流する場の設定を継続するようにした。



### ⇒教師用 Chrome book の活用

香港小ではグローバルクラスにのみ Chrome book が配備されているため、4 G には Chrome book を初めて使う児童が多い。教師も児童と同じ Chrome book で指導ができるようになったため、全体指導をコンパクトに、そして個別指導をじっくり行うよう心がけた。英語担任が ICT やオンライン教材に詳しいため、新しい教材の導入等をお願いするといった連携も図った。

また、プレゼン前は教師用の Chrome book で児童のプレゼン資料データを一括し、加除修正等の指導用にも活用した。児童とデータを共有できるので、学校での対面時だけでなく、オンライン授業が再開し児童が家にいる状況でも児童とスムーズにやり取りができるようになった。

### (b)積極的な校外学習の実施

校外学習の際は児童 4 名につき大人 1 名が引率する小グループで活動を行うようにするという制限が出された。この制限により学年単位での校外学習は難しくなったが、GC の少人数編成である利点を活かし、毎学期に一度は校外学習を取り入れるようにした。しかし、例年見学に行っていた施設が見学受け入れをストップしているのがほとんどで、新しい見学場所の開拓もした。香港出身の英語担任がいるため、見学に適した場所を探したり、見学に向けてのやり取りを行ったりしてくれた。

- < 1 学期 > 4 G ラマ島でのインタビュー (6月25日)
- 5 G ラマ島での実地調査 (6月29日)
- 6 G 香港科学博物館見学 (7月27日)
- < 2 学期 > 4 G タイタムダム見学 (10月19日)
- 5 G カップラーメンミュージアム・カオルーンパーク見学 (12月7日)
- 6 G 難民キャンプボランティアに携わる方のオンラインレクチャー (11月24日)
- < 3 学期 > 教育局からの指示により、実施できなかった。

予定していた校外学習：水知園見学、サイバーリテラシーによる出前授業

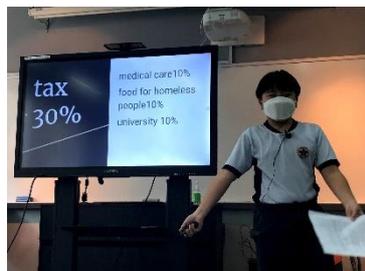
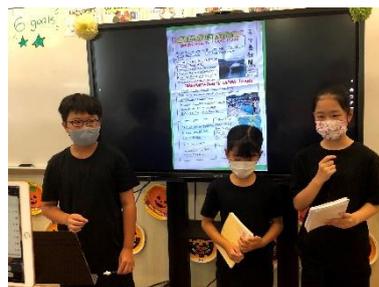
※下線が引かれている場所は、新しい見学場所。



### ⇒iPad の活用

iPad は持ち運びが容易であるという利点があるため、校外学習の記録用に活用した。ワークシートへの記録 + 写真の記録ができるため、学校に帰ってからのまとめやふり返りに有用である。しかし iPad ではレポートの作成がしにくいので、iPad での記録を使って Chrome book で加工するというように、それぞれの機器に合う方法で活用ができた。

### (c)ICT 機器を活用したオンラインプレゼン発表



#### ⇒ワイヤレスマイク・ポインターの活用

GSで学んだことから見出した自分の考えを発信する場として、定期的に発表会を設定している。しかし今年度は保護者が来校できない状況が続いたため、対面+オンラインの形で実施した。

対面であれば、発表者の声を直接聞くことができるので音声が伝わりやすいが、オンラインでの視聴となると声が途切れたりしがちであることを考慮した。保護者からは声が聞こえないなどの声は聞かれなかったため、ワイヤレスマイクとスピーカーを利用することで收音効果が高まったと思われる。

また、スライドを使用するクラスはポインターを活用した。プレゼンする際の課題の1つとして、「話している」というより原稿を「読んでいる」印象が強い児童が多いと感じている。これまでの発表では、Chrome bookをテレビとつないでスライドの切り替えを直接行わなければならなかったため、発表者は机から離れられず、しかもスライドの原稿をじっくり見ることのできる状況にあった。児童は原稿をしっかりと準備して発表に臨んでいるのだが、それが逆に課題を生み出す要因にもなっていた。発表の場づくりを改善する手立てとして、今回ポインターを活用し、発表者用の机を置かないことにした。そのためテレビ前の発表スペースがかなり広くなり、発表者が動きやすい場を作ることができた。

#### イ、探究学習に関する日本人学校間での情報交換の実施

・シンガポール日本人学校クレメンティ校、チャンギ校との情報交換会（12月17日実施）

#### (2) 中学部

##### ①習熟度別英語授業

本校にはネイティブに近い英語力を有する生徒から、ほぼ日本と同等レベルの生徒まで、英語力に関しては多様な生徒が在籍している。また、小学部でグローバルクラスに在籍した生徒の力をさらに伸ばすため、中学部では学年ごとに、A～Eの5つの習熟度に応じた英語の授業を行っている。

##### ②総合的な学習の時間での探究学習

本校の総合的な学習の時間には、「コミュニケーション力」「表現力」「情報収集・活用力」「キャリアプランニング」の育成を図るために、「探究・交流学习」と「生き方・キャリア学習」を主な学習の柱として、各学年の発達段階に応じた学習内容に取り組んでいる。

この中で、「探究・交流学习」として、本校で取り組んでいる各学年の学習について紹介したい。

#### ア 1年生の取組「中文大交流学习」「職業調べ学習」

「中文大交流学习」では、香港中文大学の学生との交流活動を通して、香港や中国に対する関心や理解を深めるとともに、「コミュニケーション力」の向上を図っている。また、「職業調べ学習」では、身近な大人の職業について調べることで、今の学びと将来の自分とのつながりを意識させ、生徒の自主性や探究心を育てている。

#### イ 2年生の取組「現地校交流学习」「未来授業・上級学校調べ学習」

現地校との交流活動を通して、お互いを尊重し、理解しあう気持ちを育てるとともに、「コミュニケーション力」を高めている。また、「未来授業・上級学校調べ学習」では、多くの職業のプロフェッショナルの話を聴くことをとおして、将来の自分の姿を明確に意識させ、主体的に進路を切り拓いていこうとする力を育てている。

#### ウ 3年生の取組「香港大学交流学习」「職場体験学習」

香港大学の学生との交流を通して、国際的な視野を広げ、自己の生き方についての展望を持たせるとともに、「コミュニケーション力」を高めている。また、「職場体験学習」では、生徒一人一人が海外に生きる日本人の一人としての自覚をもたせ、これまでに身に付けたスキルをもとに、予測困難な状況にも柔軟に対応できるグローバル人材としての資質・能力を育てている。



現地校交流学习



香港大学交流学习



職場体験学習



未来授業

#### ③広東語タイム

文化交流委員会の活動の一つとして、月に数回、朝の短学活までの時間を利用した「広東語タイム」を行っている。この取組は本校の所在地である香港の現地語に関心をもたせるとともに、現地スタッフはもとより、現地の人たちと積極的な交流を図ろうとするものである。

## 6. 今年度の成果・効果

### (1) 小学部グローバルクラス

#### ア、GSの単元開発、授業実践

<GSについての保護者・児童アンケート結果より> 【別添資料1参照】

- ・保護者の9割以上が、子どもにプレゼンの機会が十分あり、堂々と考えを表現できているようになっていると考えている。保護者が来校できない状況にあっても、しっかりと児童が学習の成果を発表できる場づくりができたと言える。
- ・2021年度後半の保護者アンケートでは、子どもたちの成長を感じたというコメントを多くいただいた。
- ・様々な発表方法を経験させることで、児童が自分に合った表現方法を見つけることにもつながる。ICT機器は手立ての1つであるという意識を忘れないようにしたい。
- ・「GSの授業がよく分かる」と答えた児童は100%である。
- ・「難しい課題でも、あきらめないで考えたり調べたりできる」と答えた児童が、92.5%から100%に上がっている。
- ・「プレゼンテーションでは、聞いている人にわかりやすく説明することができる」と答えた児童が、87.7%から91.8%に上がっている。

#### イ、探究学習に関する日本人学校間での情報交換の実施

シンガポール日本人学校は学校全体で研究を進めているということで、学年ごとの実践について情報を得ることができた。校外学習ができないため、職員が外に行って中継するというオンラインの活かし方も聞くことができた。

時差や学校行事の都合でパリ日本人学校は参加できなかったが、それぞれの学校の実践については資料をメールで共有し合った。【別添資料 2 参照】

#### (2) 中学部

さまざまな取組をとおして、「英語力」や「コミュニケーション力」の向上は大きな成果の一つである。タブレットを活用した学習を積極的に取り入れた結果、情報機器活用力が大きく向上した。特に、今年度は AG 5 事務局から予算支援を受けて、ApplePencil と班活動用のデジタルカメラを購入させていただいた。これまではどちらかという受動的であった活動がそれらの活用によって、主体的なものへと変容している。これらのことから、本校が目指すグローバル人材としての資質である、「コミュニケーション力」や「表現力」、「キャリアプランニング力」等の資質や能力を伸ばすことができたと考えている。

### 7. まとめ

#### (1) 小学部グローバルクラス

##### ア、GS の単元開発、授業実践

昨年度整えた ICT 環境をさらに充実させ、今年度の状況に合わせた形で活用することができた。また、教育活動が制限された中でも、グローバルクラスの特徴を失わないように積極的に校外学習に出かけたり、GS の質を維持できるように工夫したりすることができた。これまで作成してきたカリキュラムマップや GS について共有するための資料、今年度授業実践で使用した教材・教具等をしっかり引き継ぐことで、メンバーが入れ替わる来年度もさらに質の高いものを目指しながら実践を続けていけるようにしたい。

#### イ、探究学習に関する日本人学校間での情報交換の実施

同じテーマを研究する学校の情報を聞かせていただくのは、とても貴重な機会となった。それぞれが置かれた環境や感じている課題は違うものの、得た情報が今後の実践につながるヒントにもなりうる。また今後、実践を進めていく中で行き詰まった時に相談する相手がいることも心強い。交流を続けていくことは、相互にとって大きなメリットとなると考える。

#### (2) 中学部

コロナウイルスに係る防疫措置として、政府教育局からは郊外での「探究学習」や「交流活動」が大きく制限されたが、それでも本校の生徒たちは、限られた学習条件・学習環境のもとでも、自分の将来をしっかりと見据え、主体的に自分の生き方を切り拓いていこうと日々努力している。このような態度や取組は小学校でのグローバルクラスで身に付けた資質や能力が基盤となっていることは言うまでもないことである。

### 8. 次年度の計画

#### (1) 小学部グローバルクラス

- ア、これまでの実践を基に探究学習を継続していくが、保護者や児童のニーズ・教育活動の制限等に合わせて修正や変更を加えてよりよい探究学習を目指す。(ICT 環境の効果的な活用法、校外学習先の開拓等)
- イ、グローバルクラスの評価のためのルーブリック指標を基に、通知表をより活用しやすいものにしていく。

ウ、香港情勢やコロナウイルスの影響で学校全体の児童数が減少している。児童数を確保するために、ブログ等で情報発信を継続し、試験情報をより広い範囲で広報する工夫を行っていく。

エ、イメージ教育や英語教育を通じた、英語力向上を継続させる。

## (2) 中学部

探究学習・交流学习を研究の柱とし、各教科及び各領域で継続・発展的に取り組んでいく。主な内容としては次の通りである。

### ①第1学年

日本の中学校との交流学习/中文大学交流学习/探究的校外学習/広東語タイム初級編

### ②第2学年

未来創造授業/現地校との交流学习/探究的修学旅行/広東語タイム中級編

### ③第3学年

キャリアプランニング学習/香港大学交流会/職場体験学習/探究的校外学習/広東語タイム上級編

## 9. 所感

### (1) 小学部グローバルクラス

今年度から、グローバルクラスを創設したメンバーを知っている職員がいない状況となった。さらに防疫措置による教育活動の制限がたくさん加わった。しかしできるようになったことも増えたということで、昨年度できなかったことに積極的に取り組めたことはとても良かったと感じる。その取り組みを通して、ICTの活用がより必要不可欠なものとなったことも強く実感している。何をどのように使えばうまくいくのか、職員で知恵を出し合いながら実践し、またそれによって児童や保護者から「またプレゼンをしたい。」「成長を感じられた。」という肯定的な声が上がったことは自信にしたい。今後も毎年職員は入れ替わるし、コロナウイルスの影響による教育活動の制限や変化も避けられないと考えられる。これまで積み上げた実践を大切にしながらも、状況やニーズに合わせたさらなる実践力向上を図っていきたい。

### (2) 中学部

今年度、AG5からの予算支援を受けて、探究学習・交流学习のための消耗品・備品を購入することができた。今年度は香港政府の指示により、1月末から対面授業が停止されたため思うような学習・活動ができなかったが、今回購入できたApple Pencilやコンパクトデジカメを積極的に活用し、グローバル人材としての資質・能力を高めるとともに、在外教育施設の特徴を生かした探究学習や交流学习を仕組み、世界で活躍するグローバル人材の育成に努めたい。

※記入欄は適宜拡張してください。